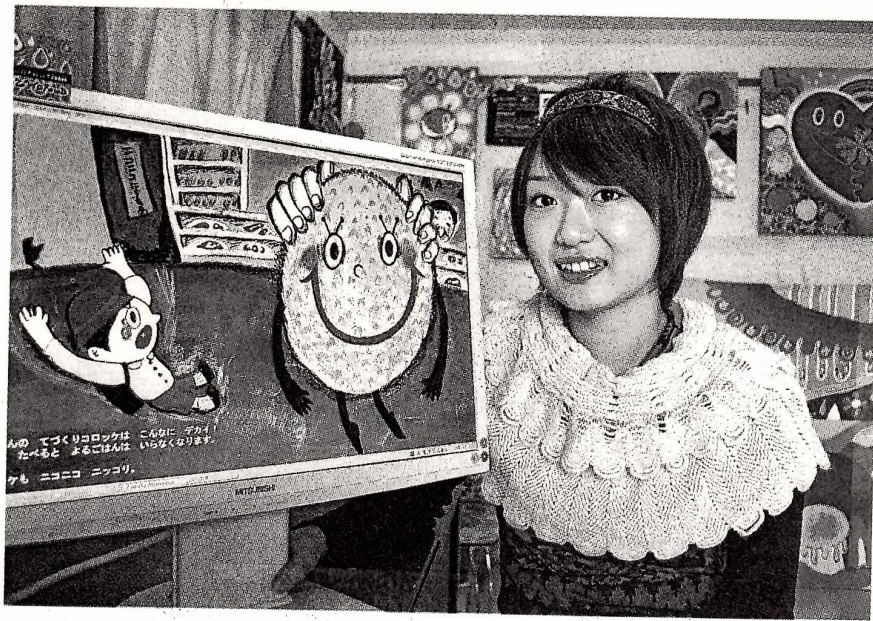


新たな表現 普及は急速

無名から“一夜”で作家

ア
ー
ト



東京都中野区のマンションの一室。1982年ソウル生まれのアーティスト、ソ・ミジさんの自宅兼仕事場だ。壁にはアクリル絵の具で描いた色とりどりの作品が並ぶ。

参加し、個展も開くが、外国での孤軍奮闘を支える強力な武器はネットといえる。学校帰りの男の子が主人公の絵本「ニコニコしようてんがい」。09年の完成以来、多くの人の目に触れる機会はなかったが、10年9月、状況は一変する。ネットですぐにでも作品を配信で

きる電子書籍サービス「パブリ」で無料公開すると、たちまち約3千人の読者を獲得した。

「幸せな気持ちになった」「友達にも紹介する」……。読者がサイトに書き込むコメントに励まされる。「ネットですぐにでも作品を配信で展示を見に来てくれる人もいる」とソさん。自ら演奏するウクレレの音楽を組み合わせた絵本作りなどにも取り組もうと思っている。

パブリを運営するペーパーボーイアンドコーによると、サービスの利用者は作品を発表する人、読む人を合わせて1万7千人。小説

や童話、絵本、写真集、マンガなど7千作品が集まっている。作品はパソコンだ

けでなくスマートフォン（高機能携帯電話）やタブレット端末でも読める。全体の8割が無料の作品だが、10円から3000円までで売れることもできる。

双方向性や柔軟性を備えるネット。作品の編み出し方もバラエティーに富む。未完成の小説を公開し、読者の反応をみながらその後のストーリーを考えたり、文字だけだった作品に後から挿絵を追加したりすることも可能だ。

ペーパーボーイの吉田健吾副社長は「作者は一般の人たちが圧倒的に多い」と話す。ITで広がった創作空間が、新たなアーティストをはぐくむふ化器にもなる。